

トリプル・オウ通信

Stitch

糸でつなぐ、ものづくりの話

01



000
TRIPLE O

スフィアストライプ バッグ S

〔価格〕 ¥18,700 (税込)

〔サイズ〕

高さ 28 cm (本体 18 cm)

幅 19 cm 奥行 7 cm 重量 110g

〔カラー〕

ターコイズ / レッド / ブルー /

ライム / チャコール

外周をチェーン刺繍で囲い、
一体感を演出。刺繍を施すこ
とで、生地に程よいハリを持
たせ、自立しやすく上質な佇
まいに仕上げた。



織細さとカジュアルを
両立したミニマムバ
ッグ

トリプル・オウのアイコン
「スフィア」をイメージして
デザインされたテキスタイル
シンプルな模様は刺繍の凹凸
感を引き立てる

STAFF VOICE

サーモスの水筒やお財布を入れても
底が型崩れしにくく、見た目以上に
丈夫。毎日気兼ねなく使えます。



スタッフ I

軽くて持ちやすく、自立するのが嬉
しいポイントです。お財布 2 つ、鍵、
スマートフォンがきれいに収まり、
収納力があります。



スタッフ S

スフィアストライプバッグ S は、公式オンラインストアにて
受注生産で承っております。その他一部 POPUP イベント
でもご覧いただけます。(詳しくは公式 HP へ)

Stitch (ステッチ) は、トリプル・オウのものづくりを伝える読み物です。
刺繍のアイテムが生まれる背景や、ものづくりへの想い、つくり手の声を届けます。

000 / トリプル・オウ

<https://www.000-triple.com/>

群馬県桐生市新宿 3-4-7

☎ 0277-44-3353 (平日 9:00 ~ 17:00 / 土曜祝定休)



公式 HP はこちら



instagram はこちら



スフィアがバッグになるまで

トリプル・オウ15周年の新たな挑戦として誕生した「スフィアストライプバッグ」。企画を担当した新井さんに話を聞くと、その始まりは2024年に「地産地匠アワード優秀賞」を受賞した刺繍ポシェットでした。「受賞したポシェットはアートピースとして完成度の高いものでした。でも次につくるなら、もっと毎日使ってもらえるものにしたかった」と思っただけです。トリプル・オウの刺繍を、もっと身近に感じてもらえるバッグを目指しました。」（新井）

財布やスマートフォンなど必要なものだけを持つて気軽にかけられるサイズ感。そして、アクセサリづくりで培ってきた「軽やかさ」というブランドの魅力をバッグでも表現するため、試作が始まりました。

半年かけてたどり着いたらしき：

「ひと目見て、トリプル・オウだと分かるバッグにしたかったんです。」（新井）

その答えとして選んだのが、ブランドの象徴でもある「スフィア」。丸い糸玉をストライプ状に並べることで、遠くから見ればシンプルな柄、近づくると一つひとつのスフィアが浮かび上がる、トリプル・オウらしい表情が生まれました。

開発当初は、糸だけでバッグを構成する案も検討したそう。

「アクセサリのように、できるだけ糸の魅力だけでつくりたい気持ちもありました。でもバッグは毎日使うもの。強度や使いやすさまで考えた結果、ポリエステルツイルの生地を刺繍を重ねる今の形が一番良いという結論になりました。」（新井）

バッグとしての丈夫さと、刺繍の美しさ。その両立を目指し、約半年かけて試作を繰り返しました。

サンプルでは縫えても、量産では縫えない

デザインが完成し、いよいよ量産が始まりました。

しかし、サンプルづくりと量産では、同じ刺繍データを使っても仕上がりが大きく変わります。サンプルは1台のミシンで縫製しますが、量産では一度に10枚を同時に縫う多頭刺繍機を使用します。そのため、サンプルでは問題なく縫えていたものでも、量産機では思わぬ不具合が現れることがあります。

実際に量産を担当したミシンオペレーターの福田さんは、最初に苦労した点をこう振り返ります。

「土台の生地をチェーン刺繍で縁どる工程では、生地と刺繍が重なる部分に厚みが出るので、頻繁に針が折れてしまいました。そのため、重なる部分だけ刺繍データを修正して針数を減らすなど、何度も調整を重ねました。」（福田）

「バッグを埋め尽くすスフィアの刺繍は、真ん中から縫い始めて片側を縫い終えるまでに半日ほどかかります。その間に土台の生地が少しずつ縮んでしまい、反対側を縫う頃には柄がずれてしまう。最終的には左右を交互に縫う順番へ変更することで、柄ずれを防げるようになりました。」（福田）

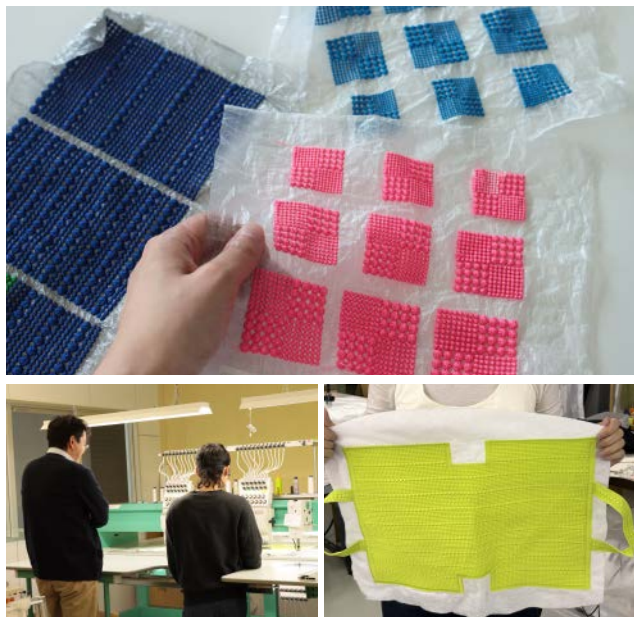
職人の感覚が仕上がりを決める

バッグ一点に施される刺繍は約20〜23万針。

ミシン工程だけでも約5時間を要し、一日に仕上げられる良品は4〜5点ほどです。

しかし、時間がかかる理由は針数だけではありません。刺繍は上糸と下糸のわずかなテンションによって仕上がりが変わります。

しかも、その最適な糸調子はミシン一台一台で異なり、素材や針、糸が変われば、すべて最初から調整し直さなければなりません。



(1) 柄の大きさや針数による風合いの違いを確認する試縫い (2) サンプル機の前で試行錯誤する新井さんと福田さん。(3) 縫い上がりの状態。この後芯地を水で溶かし、バッグのみを取り出して縫製へ。